

私学の魂

桜美林中学校・高等学校

世界に羽ばたく! 真の「国際人」を育てる 多文化共生の教育 隣人愛の心を持ち、他者との共生を目指す。 それが、桜美林伝統の国際理解教育

「キリスト教主義の教育に基づいた国際人の育成」を建学の理念に掲げる桜美林中学校・高等学校では、創立当初より外国語教育にも力を入れてきました。英語に加え、第2外国語として中国語、韓国語の選択授業をカリキュラムに取り入れるなど、多文化共生の教育を行っています。さまざまな文化・言語をもった人々との交流を通じてお互いを尊重し合い、意思疎通ができるコミュニケーション能力を身につけることが狙いです。グローバル社会にあって、真の「国際人」に必要な資質とは何でしょうか。

「隣人愛の精神を持ち、“学んで人に仕えよ”の教えを守り、広く国際社会に貢献できる人間になってほしい。それが、本校が目指す教育です」と話す教頭の若井一朗先生に同校の英語教育と国際理解教育について伺いました。



教頭 若井 一朗先生

DATA 1

桜美林中学校・高等学校

沿革と最近の改革

- 1921 (大正 10) 年 北京市朝陽門外に崇貞学園設立 創立者 清水安三
- 1946 (昭和 21) 年 桜美林学園開校式。財団法人桜美林学園、高等女学校開設 初代理事長 賀川豊彦 初代学園長 清水郁子
- 1958 (昭和 33) 年 町田市常盤町 3758 番地に最初の鉄筋コンクリート校舎 (明々館) 第一期工事落成
- 1976 (昭和 51) 年 高校野球部 全国高等学校野球選手権大会 (夏の甲子園) に於いて優勝
- 1992 (平成 4) 年 大志館新館 (高校校舎) 落成
- 2001 (平成 13) 年 立志館 (中学新校舎) 落成
- 2008 (平成 20) 年 荊冠堂献堂・パイプオルガン奉獻
- 2017 (平成 29) 年 中学入試に「総合学力評価テスト」を導入
- 2020 年 高校「国際コース」新設。

校長 大越 孝

所在地 〒 東京都町田市常盤町 3758

TEL : 042-797-2668 (代)

<http://www.obirin.ed.jp>

交通 JR 横浜線「淵野辺駅」北口下車 スクールバス 7~8 分、または徒歩 25 分
京王線・小田急線「多摩センター駅」下車 スクールバス 20 分

国際色豊かな環境で 「生きた英語・活かせる英語」を 身につける

創立以来、国際交流に積極的に取り組んできた同校では、海外からの留学生を積極的に受け入れてきました。併設大学の海外提携校は130を超え、年間500人を超える留学生が学んでいます。本校でも、交換留学制度を利用して毎年3人くらいの留学生がやってきます。外国人の専任教員や留学生たちと日常的に接する環境なかで、生徒たちは文化や言語の多様性を感じながら、自分で考え、表現することの必要性を日々実感しています。

英語は、文化の違いを認め合い支え合うコミュニケーション・ツールとして欠かせないもの。同校では、「Express Yourself in English」（英語で自分を表現しよう）をキーワードに、中学・高校の6年間を通して「生きた英語・活かせる英語」を身につけていきます。

中学では専任2人、非常勤2人、計4人の外国人の先生が教えています。週6時間の英語の授業のうち、中1・2では専任の外国人の先生と日本人の先生が連携をして、週2時間のTTを実施。残り4時間は読み・書き・文法など基礎の定着、発展に重点を置いています。

毎年秋の文化祭で行われる「イングリッシュ・プレゼンテーション」は、生徒が司会進行を務め、各学年の代表者が英語で発表し、順位を決めるコンテストです。中1生は暗唱、中2生はスキット（数行の文章）、中3生は自分で考えた内容を発表するスピーチで、それぞれ1年間の英語学習の成果を全校生徒の前で披露します。

中3で英検3級取得が目標 日々の充実した授業の蓄積から、 確実な英語力アップを図る

学年ごとに英検取得目標があり、中3卒業時に全員が3級以上の取得を目指しています。なかには、中3で準2級を取得する生徒もいます。

若井先生：「中1～2では、スムーズな英語の導入に力を入れています。TT（Team Teaching）はあいさつ程度の日常会話から始まり、語彙を増やしながらか、伸び伸びとコミュニケーション能力を育てていきます。漫然とした会話で理解が曖昧にならないように、日本人の先生がサポートしながら、通常授業の進捗状況に合わせた会話力のレベルアップに努めます。また、全教室に配置された電子黒板なども利用して、わかりや



外国人の専任教員と連携したTT（Team Teaching）

く、効率的な授業を心がけています。

毎日1～2時間程度のホームワークも課しています。語学の習得には蓄積が重要です。TTを含めた日々の授業を充実させることで、「読む・書く・話す・聞く」の4技能をバランスよく身につけ、確実な英語力アップを図っています。

さらに、インプットしたものをアウトプットする多くの機会を設けており、その一つが、毎年恒例の『イングリッシュ・プレゼンテーション』です。自分で考えたことを英語で表現することで、「発信する力」を養うことにつながっています。また、外国人の先生は、朝礼、終礼などのホームルームを担当することもあり、日頃から身近でおしゃべりできる存在です。専任教員の一人は、IFS（国際交流クラブ）の担当顧問として、授業以外にも生徒と積極的に関わっています」

4泊5日のファームステイ体験 オーストラリア海外研修（中3）で学ぶ コミュニケーション能力

こうした積み重ねを経た中学英語の総仕上げとして、中3生は12月に、多文化共生の地、オーストラリアを訪問します。7泊8日の日程の主な内容は、4泊5日のファームステイ（農家滞在）、メルボルン博物館での研修、メルボルン自由行動。研修の中心となる4泊5日のファームステイでは、全生徒が3～4人一組になって40家庭ほどに分かれ、メルボルン郊外のファームに宿泊します。オーストラリアの大自然を感じながら、草原に放牧された羊や牛の世話の手伝いをしたり、ホストファミリーとのふれあいをとおして、「もっと伝えたい」というコミュニケーション能力の重要性を実感します。

若井先生：「ファームステイでは、巨大なトラクターに乗って収穫のお手伝いをさせてもらったり、羊の毛



中3で実施されるオーストラリア研修



オーストラリアの酪農家で牛や馬の世話を手伝う生徒

を刈ったり、豊かな大自然のなかで生徒たちはさまざまな貴重な経験を積んでいきます。オーストラリアの海外研修では、異なる習慣をもつ人々と接する異文化体験が重要だと考えています。相手との距離を縮めるために、家族の写真を持っていきように生徒たちにアドバイスするなど、中身のあるコミュニケーションができるように指導しています。

もちろん、すぐには打ち解けられない生徒もいますし、会話がスムーズにいかないこともあるでしょう。お世話になったホストファミリーとうまく話せなくてもどかしさが残れば、「もっと英語を話したい」と、学習意欲を高めるきっかけになります。そして、自分たちを受け入れようと努めてくれるホストファミリーとのふれあいに感激して帰ってきます。英語は通じなくても、優しさは伝わるのです。

英語力のレベルアップと同じくらい、相手の気持ちを感じとるコミュニケーション能力を高めることが大事だと考えています。なぜ、英語教育が必要なのか。もちろん、大学受験や将来に役立つという実利性もありますが、それは次善の目標にしかすぎません。もっとも重要な理由は、英語が他者とのコミュニケーションをとるために必要なツールであり、わが校が考える真の「国際人」に必要な素養だと考えているからです」

他文化共生を目指す国際交流教育 中3から選択制の第2外国語

同校の国際交流教育は、欧米諸国だけでなく、創立者の清水安三先生が中国で学校を創設した意思を継いで、アジアとの交流にも積極的に取り組んでおり、海

異文化交流

コラム1

中国語教育

日常のさまざまな場面における会話を習得するほか、漢詩、漢文、四字熟語を中国語で読んだり、ドキュメンタリーや映画などの映像を見ることで中国に関心を持ち、中国文化についての理解を深めます。

韓国語教育

ハングル文字の仕組みや書き方、日本語と異なる発音の特徴を理解し、文字の読み・書きを学びます。基本的な文法を身につけ、日常生活で使用頻度の高い語彙を使った簡単な会話をマスターします。

短期留学

英検準2級以上の資格を取得した生徒を対象に、夏休みや春休みを利用して2～3週間の短期留学（語学研修）を行っています。留学先は、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、イギリスなど。毎回、20～30名の生徒が参加します。



外研修プログラムも充実しています。姉妹校として相互交流を行っている学校は、オーストラリア・中国・韓国の3カ国5校。中国語や韓国語をカリキュラムに取り入れているのも、同校の特徴です。

中3生以上は中国語か韓国語のどちらかを選んで、第2外国語を選択することができます。中国や韓国の提携校との交流もあり、第2外国語を選択する生徒が年々増えています。

若井先生：「第2外国語は選択制です。なかには、中3で韓国語を選択して、高3の時には簡単な通訳もできるレベルになった生徒もいます。母親が韓流ドラマのファンだったことをきっかけに韓国に興味を覚えたようですね。

桜美林教育の根底にあるのは、キリスト教精神に基づいた他者共生の心です。異なる文化や背景、個性をもった世界中の人たちと、平和に共存していくにはどうすればいいのか。語学をツールにコミュニケーションをとりながら、互いに理解し合い、認め合うことができる人間、そうした真の“国際人”を育てることが、私たちの目標です。

海外研修の場で、日々の学園生活の場で、一緒に食事をしたり会話しながら気づくことはたくさんあります。オーストラリアのファームステイで、言葉がわからないなりに相手の心とつながっていることを感じることもその一つです。また、日本で暮らす留学生が、日本人がきちんと信号待ちをすることや、ゴミが落ちていないきれいな町に驚くことで、逆に日本の良さに気づくこともあるでしょう。

外国人の発想から、日本人にはない考え方を学ぶこともあります。触れ合ってみれば、自分と同じだった。そんなふうに相互理解を重ねることが、何より大事なことはないでしょうか。語学をとおして『繋がる』ことで友情を育み、別れに際して寂しさや悲しさを共有できるような人間に成長してほしい。それが、わが校の英語教育や国際交流教育の目標であり、桜美林教育のゴールなのです」

キリスト教主義を根幹に真の国際人を育成。 かけがえのない価値観を見つける場所が ここにある！

創立以来、「キリスト教主義の教育によって国際的人物の育成」を掲げ、国際交流の推進にも積極的に取り組んできた桜美林学園。併設されている大学の海外提携校は130を超え、年間500人を超える海外からの留学生を受け入れています。その国際色豊かな環境のなかで、生徒たちは“世界”を感じながら伸び伸びと学



中国の姉妹校・陳経綸中学校の生徒たちと、バスケットボール部やチアリーディング部が交流した際の記念の1枚

んでいます。文化や意見が違う人と心を通わせ一人ひとりがかけがえのない価値観を見つける場所がここにあるとあってよいでしょう。

キリスト教に基づいた教育が行われている同校の一日は、礼拝からスタートします。礼拝では聖書の言葉に耳を傾け、その言葉に自分を照らし合わせて、自分に「かけがえのない価値」が与えられていることを確認します。そして、自分と同じように隣人にもかけがえのない価値があり、愛する存在であることを学びます。

「そもそも、相手と自分は違う人。違うからと排除せずに、受け入れることから人との関係は始まります。国語の時間に作品を読み解くときには、一般的な見方に加えて、うがった見方なども紹介しながら、人間は型にはまらない、いろんな人がいるんだよと生徒の理解を促します。そういう理解ができれば、人の痛みもわかりますし、平和で幸せな世の中になりますよね」(有馬先生)

そうした環境のなかで、生徒たちのなかにはごく自然にボランティア精神が芽生えていきます。学年礼拝時には多方面で活躍する方々のお話を聞く機会がありますが、ホームレスの支援活動の話聞いた生徒は、実際に炊き出しのお手伝いに行き、東日本大震災の際には生徒の発案によって学校で有志を募り、被災地でボランティア活動を行いました。その数は100人を超える人数だったとか！

また、国際社会に目を向けて、民族や文化の違いを



国際教育部長 有馬純一先生

尊重してきた同校では、「学んだことを分かち合い、人のために、社会のために役立てること」という教育モットーが、創立時から受け継がれています。「学んだことを生かして、良い社会人、つまりは善良な市民になってほしいと私は願っています。市民生活を送るうえで幸せになるためには、批判的な目をもって、人に流されないということが大切です」と、有馬先生。

このようにキリスト教の教えが多様な文化を受け入れる素地をつくり、自分や他人を愛する心を育んでいるのです。

自分で考えて、答えを見つける。 2017年から「総合学力評価テスト」 がスタート

こうした環境で、文化や意見の異なる多様性を認めながら、自分で考えて、自分の言葉で表現することを大切にしてきた同校が、2017年の入試から「総合学力評価テスト」を新設しました。

生徒がもつ資質の多様性を求め、入試の間口を広げる狙いですが、この「総合学力評価テスト」は知識を応用した分析力や論理的な思考力など「総合学力」を測るものです。

覚えた知識のアウトプット型ではなく、その場で考えて、自分の言葉で表現する力が試されるものになります。

当時、入試広報部長だった有馬純一先生は、「人として大切なことは、自分で考えて答えを見つけることができる人。自分の行動がどう結果に結びつくのか考えられる人になってほしいと思います。『総合学力評価テスト』では、問題の解決方法や考え方をたずね、知識を応用した分析力や思考力などを測ります。思考型の勉強をしてきた受験生に、ぜひ、積極的にチャレンジしてほしいと思っています」と言います。



生徒の発案により実現した東日本大震災の復興支援



キャリアガイダンス

そして2年目を迎えた今春2018年入試では、前年以上の志願者を集め、多くの入学者を迎え入れました。

関心・視野を広げていくと、 未来の可能性が広がっていく

中学の段階から年に3回のガイダンスを実施するなど、キャリア教育にも力を入れている同校では、生徒の選択肢を広げるさまざまな取り組みを行っています。「お菓子屋さんやパン屋さんになりたいといった、身近な関心から徐々に職業観を広げていきます。できるだけ早い時期から視野を広げていくために、ここでも、さまざまな職業の方に話を聞く機会を設けています」と有馬先生。

ひと役買ってくれているのが、26年間続いている「父親の会」を中心とした、保護者の方々です。「看護師、養護学校や幼稚園の先生、芸能事務所にビルの管理会社、ロケットに携わるなど、さまざまな職業の方の話聞くことで、生徒たちの意識は変化していきます。昨今ではマスコミの報道などからも、収入が高いことが偉いことと刷り込まれている生徒も少なくありません。

困難にぶつかりながらも、やりがいをもって生き生きと働く保護者のみなさんの話を聞いて、働くということはお金を得ることだけではないことに気づき、職業への関心が広がっていきます」と有馬先生。さらに、「知識が増えれば、自分のやりたいことをあきらめなくてもすみます。野球に携わって生きていきたいと夢を描く生徒がいたら、プロ野球選手になれなくても、グローブ作りや用具メーカーへの就職、法学部に行って弁護士資格を取って代理人になるなど、好きな野球に携わる方法はいくらかもあるのです。

また、近年では日本企業に勤めても、取引先や同僚、お客さんも日本人だけとは限りません。毎日勉強して

いる英語が実際の社会でどのように役立つのか。そのことを理解する絶好の機会となっています」

同校の進路指導には、特徴がもう一つあります。生徒が自分に合った希望の進路を選択できるよう、進路指導部と学年主任、そして担任の先生が連携して、多角的な視点からサポートしています。生徒の性格や特質をよく知る担任の先生と、大学の幅広い情報をもつ進路指導の先生方が、それぞれの生徒に合わせて最適なアドバイスを行います。

多様化する昨今の大学入学試験にあわせて、進路指導部を中心に、小論文や面接指導などもきめ細やかに指導しています。このように手厚い先生方のサポートによって、生徒の可能性は未来に向かって大きく広がっていきます。

学習面においても生徒一人ひとりを手厚くきめ細やかに指導している同校では、自宅での学習方法や、予習・復習の仕方などをしっかりと身につけていきます。7年前から取り入れているのが「学習の歩み（記録ノート）」です。定期試験ごとに、目標や学習方法を2週間前から生徒自身が計画し、担任の先生も細かくチェックします。計画的に勉強を進めることが目的ですが、保護者も目を通すため、家庭、学校との連携の一助にもなっています。また1冊ずついねいに目を通す先生からのアドバイスで、次の試験への意欲も高まります。

「部活を熱心（すぎるほど！）に取り組んでいた生徒が高3の夏の引退後に、猛勉強の末に希望の大学に入学することも珍しくありません。本人の頑張りはもちろんですが、中学での基礎ができていたからだと思えます。基礎がゼロの子が本気で8月から勉強しても届かないですから」と有馬先生。中学時代に身につけた基礎が底力となって、希望の進路への道を「桜美林の生徒たち」は自ら切り拓いているのです。

表彰されてやる気スイッチ、オン！ 「勉強合宿」で中3生の 中だるみを一掃！

定期試験の合間など、年に5回実施されているのが「コンテスト」です。コンテストを行う教科は国語、数学、英語の3科目。漢字、計算、単語などの基礎力定着を目的に、全校で一斉に行われます。良い点数を取った生徒は全校生徒の前で表彰されるためか、コンテスト前にはスクールバスのなかでも勉強する生徒の姿が目立ちます。出題される範囲が限られているので、「勉強しよう」と決めるときに手をつけやすく、努力次第で高得点が狙えます。

表彰をきっかけに勉強への「やる気スイッチ」が入る



夏休みに実施される勉強合宿

生徒も多く、覚えた漢字や単語は蓄積されて、やがて財産にもなります。「あとから、絶対にやっておいて良かったと思う時が来る」と、大学合格者の先輩から後輩の中学生に説得力のあるアドバイスも。いまや、このコンテストは同校の伝統行事のひとつになっています。

2020年からは「国際コース」新設を予定。 真の“ダイバーシティ”環境へ！

そして、来春2019年以降に向けてのニュースとしては、2020年度からの高校「国際コース」新設が予定されています。

多様な個性や文化的背景を持つ生徒を迎え入れ、真の“ダイバーシティ”環境を創造しようとする桜美林中学校・高等学校のさらなる発展と生徒の成長に、大いに注目したいと思います。

無料のスクールバス

コラム2



同校へのアクセスは無料スクールバスがとても便利です。JR横浜線「淵野辺駅」から学校までの乗車時間は約8分。京王電鉄・小田急電鉄・多摩都市モノレールの「多摩センター駅」からは約20分。5～10分間隔でシャトル運行しています。